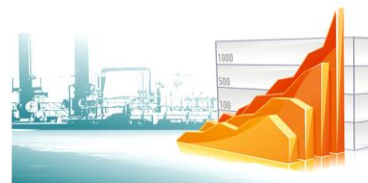


# ぎふ経済レポート



令和6年10月分  
岐阜県商工労働部

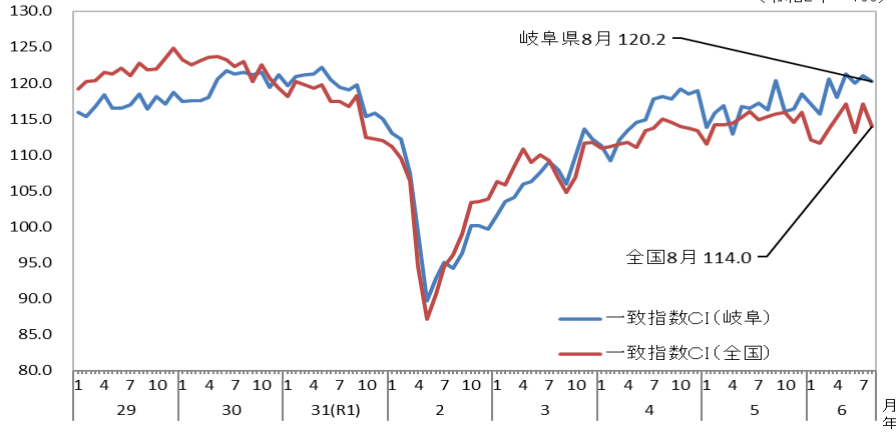
※企業等へのヒアリングは10月25日～27日を中心に実施し、11月28日時点で作成。

# 景気動向

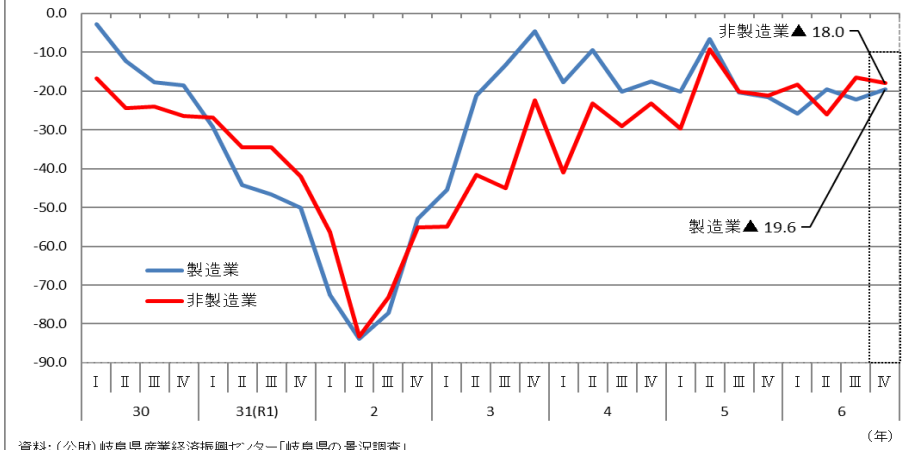
○8月の景気動向指数(一致指数)は、120.2  
 で前月比▲0.8ポイントとなった。  
 ○9月の県内中小企業の景況感は、▲18.0で  
 前月比2.0ポイント上昇となった。

○10-12月期の景況DI見通しは、製造業で前  
 期比2.5ポイント上昇、非製造業で同▲1.4ポ  
 イントとなった。売上高DI見通しは、製造業で前  
 期比▲8.3ポイント、非製造業で同▲7.0ポ  
 イントとなった。

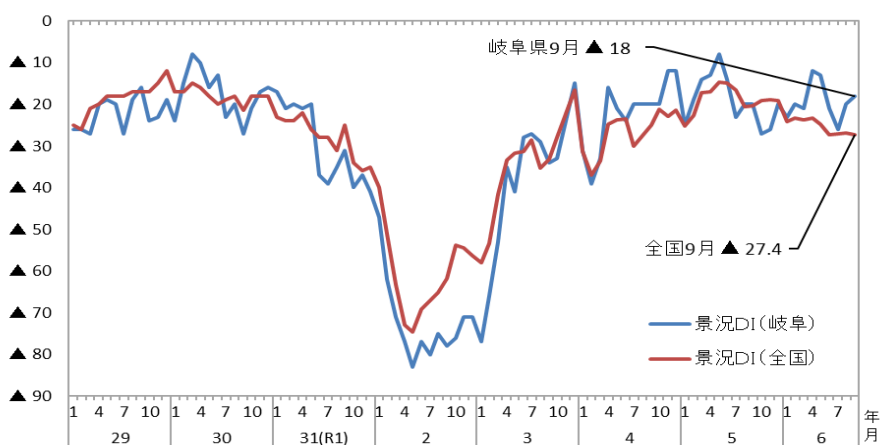
岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移 (令和2年=100)



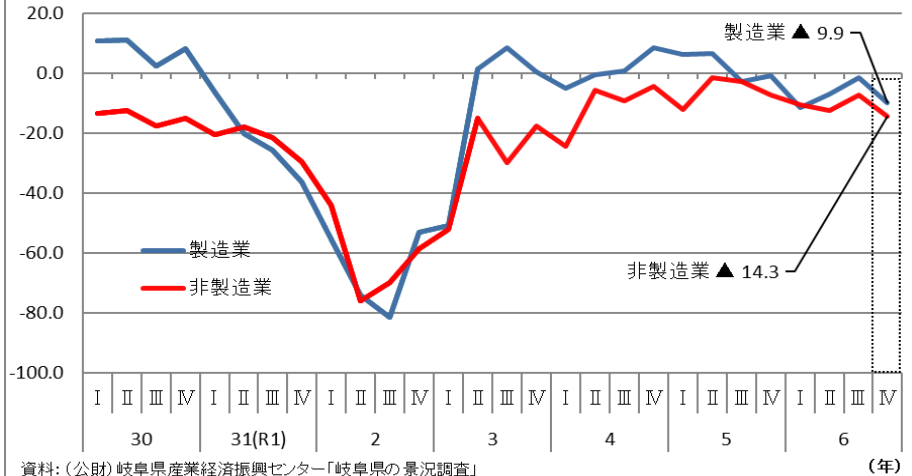
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



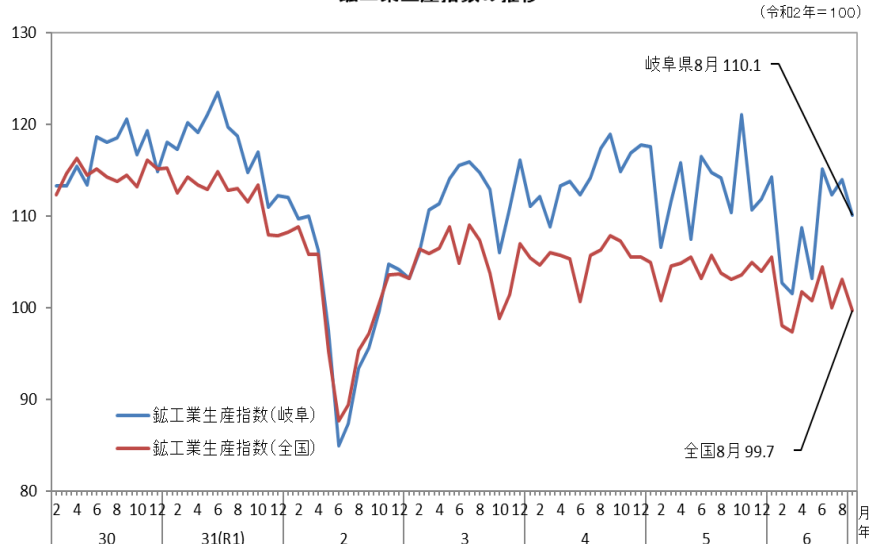
# 製造業

○8月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、110.1で前月比▲3.4%となった。

○産業別の前月比では、化学工業、はん用で上昇となった。一方で、輸送機械、プラスチック製品、非鉄金属、電気機械、金属製品、鉄鋼業、窯業・土石で低下した。

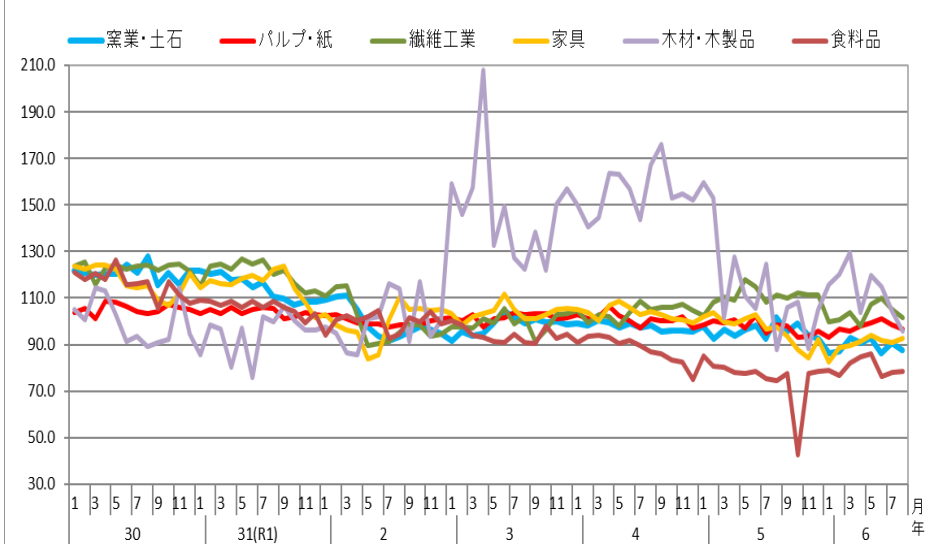
○8月の主な産業の指数は、化学工業で前月比9.4%、はん用で同0.2%上昇となった。一方で、輸送機械で同▲12.7%、プラスチック製品工業で同▲11.5%、非鉄金属で同▲7.5%、電気機械で同▲6.1%、金属製品で同▲5.9%、鉄鋼業で同▲3.6%、窯業・土石で同▲3.6%となった。

鉱工業生産指数の推移



資料: 県統計課「岐阜県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」

地場産業の鉱工業生産指数



資料: 県統計課「岐阜県鉱工業指数」

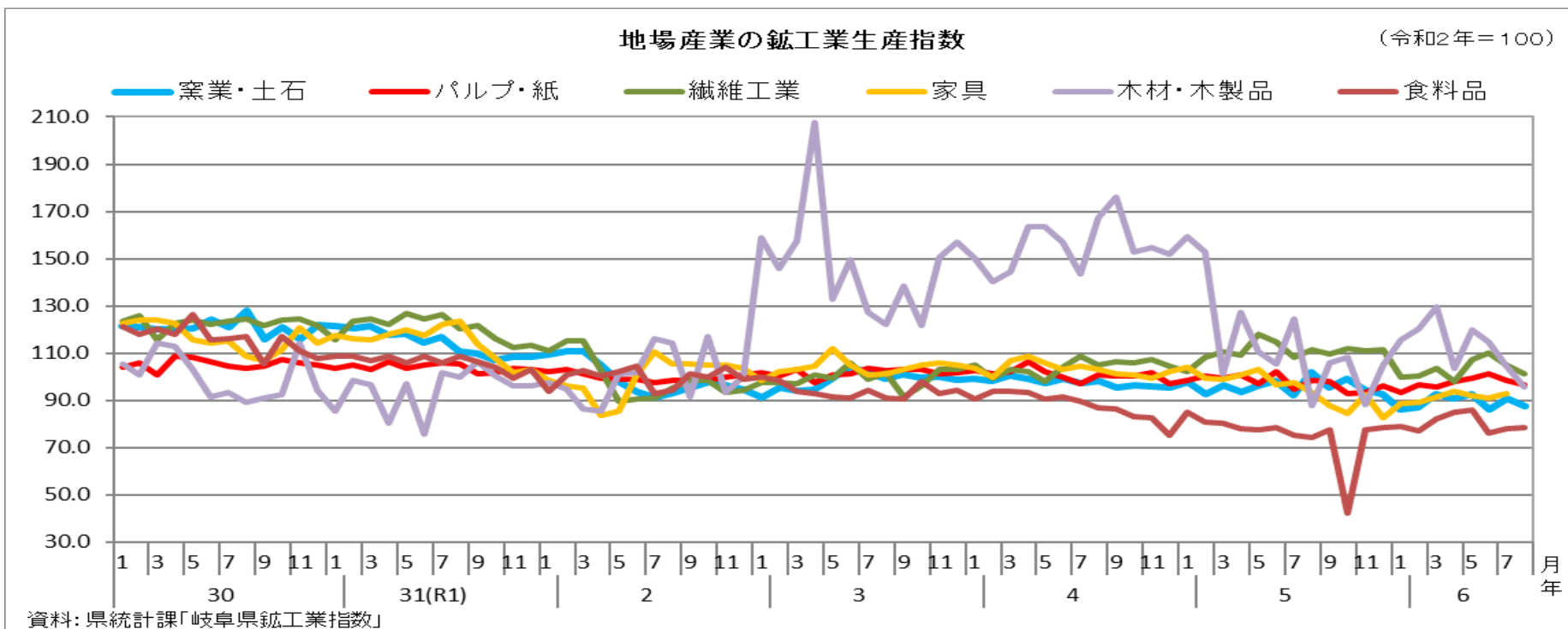
## 現場の動き

(※原油・原材料高騰、海外情勢等に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 国内需要が戻ったことにより、10月の売上高は、前月比において増加、前年同月比についても増加を見込んでいる。(輸送機械器具)
- ◆ 工作機械の市場に動きが無いことに加え、人件費の上昇や物価高騰の影響も受け厳しい状況だが、自動車関係の注文が戻ってきているため、下半期の巻き返しに期待している。(電気機械器具)
- ◆ EVの売れ行きが失速し、HVやガソリン車関連の受注が増加したことにより、年間受注計画に対して107%と増収になっている。(非鉄金属)

## 製造業-2

○8月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、家具で前月比2.0%、食料品で同0.1%上昇した一方で、木材・木製品で同▲8.2%、窯業・土石で同▲3.6%、繊維工業で同▲3.3%、パルプ・紙で同▲1.26%となった。



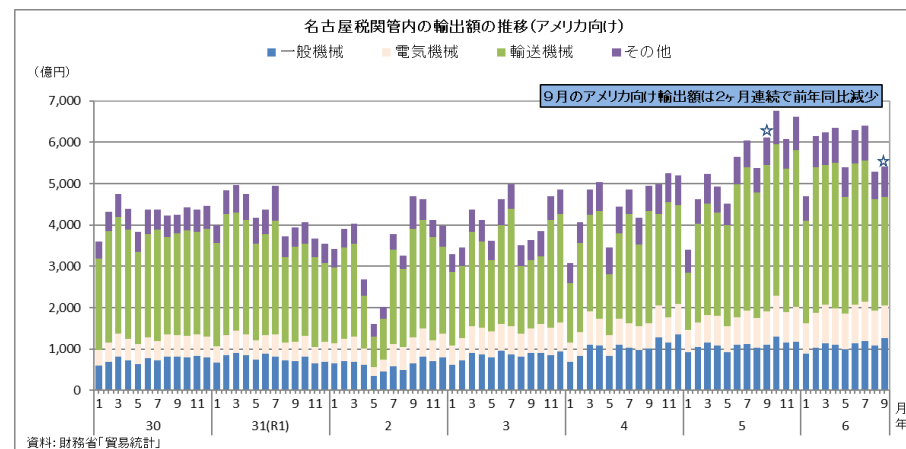
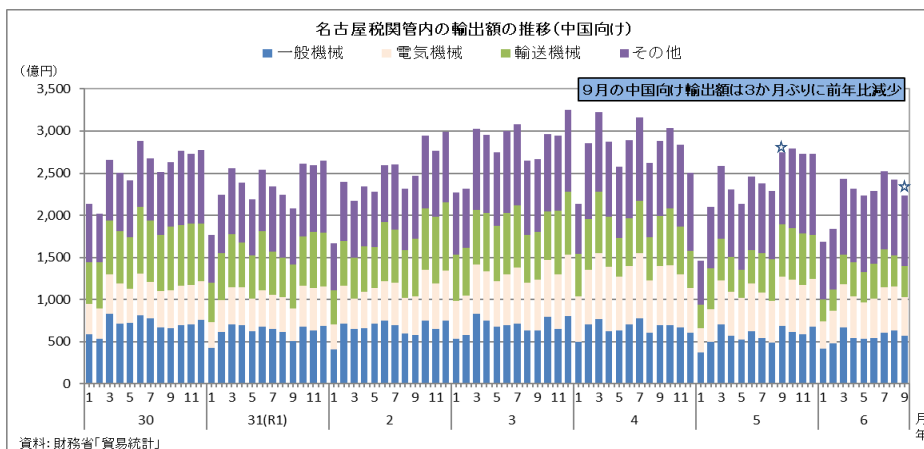
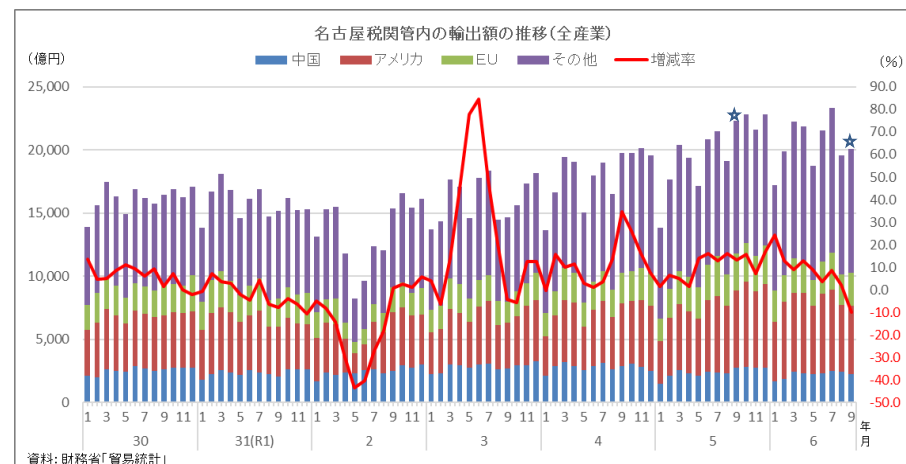
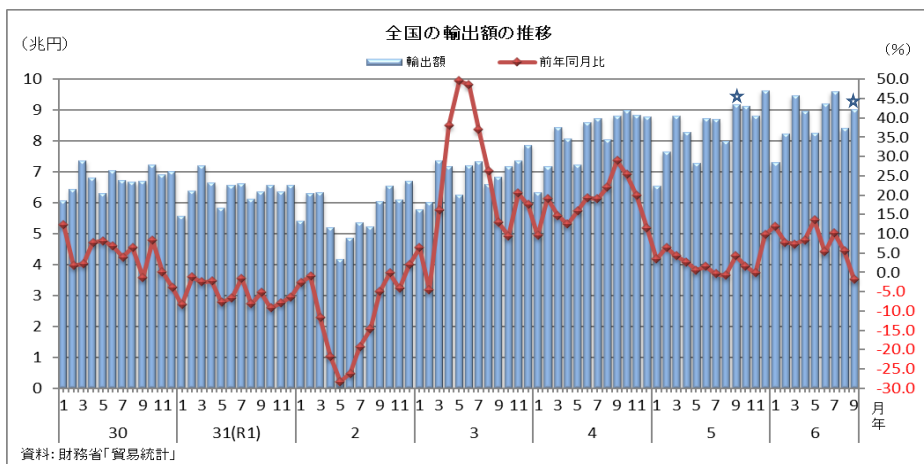
### 現場の動き

(※原油・原材料高騰、海外情勢等に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 綿糸、繊維業界の見通しはかなり悪いと聞いており、取引のあるタオルメーカーも織機稼働率は3~4割減少しているとのこと。(繊維・アパレル)
- ◆ これまでは包丁が受注の9割以上を占めていたが、食品工場の生産ラインの自動化や段ボールの開封の自動化が進んでおり、機械設備用刃物の受注が増えつつある。(刃物)
- ◆ 輸出事業は堅調に推移しているものの、小売事業の苦戦が顕著であり、売上は前年比7~8%減少している。(窯業・土石)

# 輸 出(名古屋税関管内)

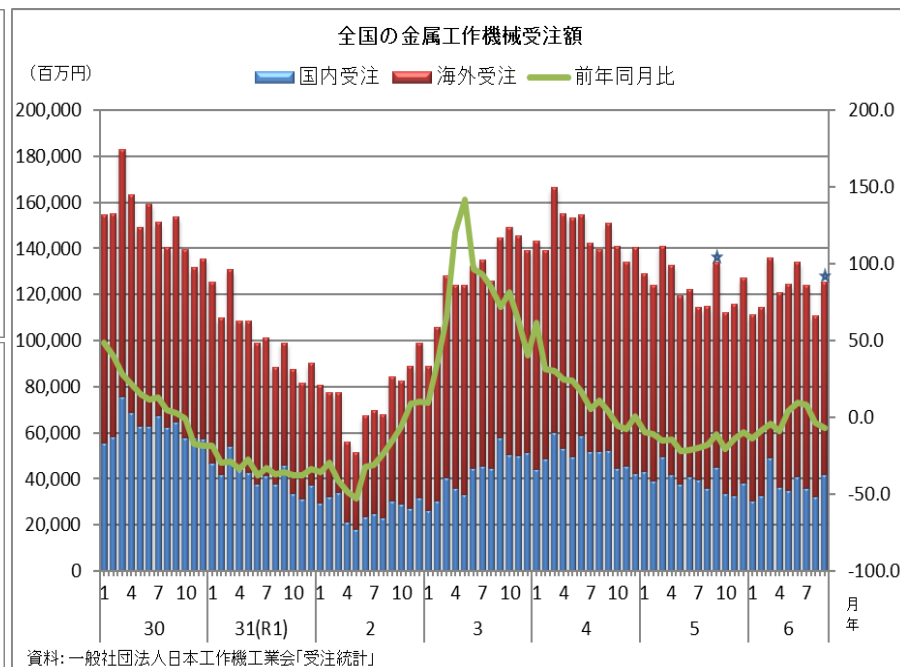
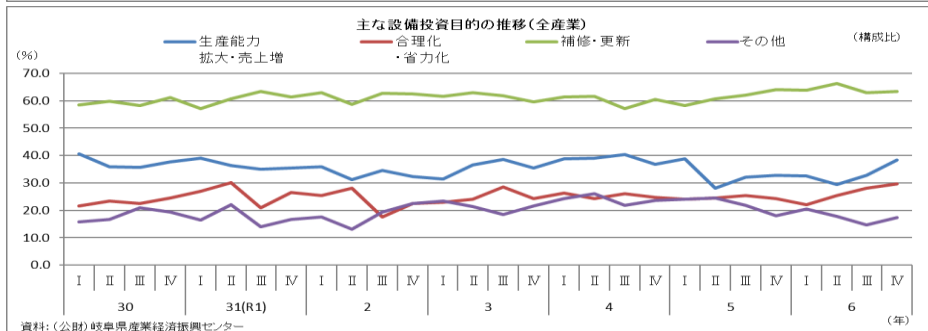
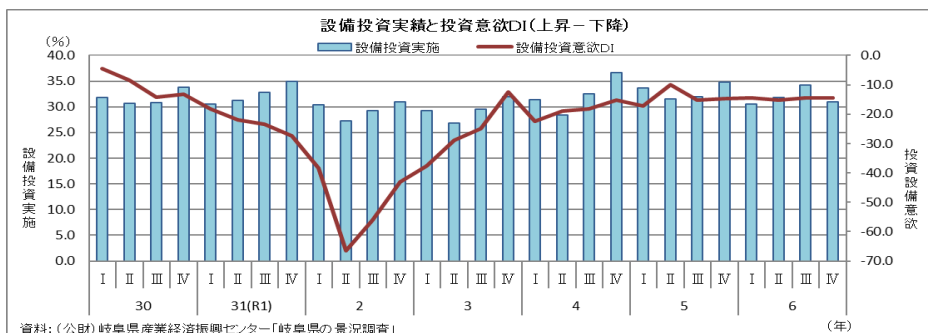
- 9月の輸出額(全国)は、9兆379億円の前年同月比▲1.8%で10ヶ月ぶりのマイナスとなった。
- 9月の輸出額(名古屋税関内)は、2兆106億円の前年同月比▲10.0%となり、32ヶ月ぶりに前年同月を下回った。
- 中国向けは、全体で前年同月比▲18.6%となった。その内、輸送機械で同▲41.0%、電気機械同▲20.9%、一般機械で同▲17.3%となった。
- アメリカ向けは、全体で前年同月比▲11.3%となった。その内、一般機械で同14.5%増加した一方で、輸送機械で同▲25.7%、電気機械で同▲2.4%となった。



# 設備投資

○10-12月期の設備投資実施見通しは前期比▲3.4ポイント、設備投資意欲DI見通しは同▲0.1ポイントとなった。設備投資実施見通しの目的別では、「生産能力拡大・売上増」で前期比5.6ポイント、「合理化・省力化」で同1.6ポイント、「補修・更新」で同0.4ポイント上昇となった。

○9月の全国の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比▲6.5%と2ヶ月連続で前年を下回った。内訳は国内受注は同▲7.0%と25ヶ月連続で前年を下回り、海外受注は同▲6.2%と2ヶ月連続で前年を下回った。



## 現場の動き

- ◆ 生産量の増加に伴い、出荷時における製品のストック場所や出荷口、搬出スペースの確保、整備なども検討しなければいけない段階となっている。(輸送機械器具)
- ◆ 近年は原価計算システムの追加や、チャットGPTを活用し生産計画を作成するシステムを導入している。(刃物)
- ◆ 規模は大きくないが、設備投資件数はそこそこあった。コロナの時期に棚上げしてきたものが、ようやく経済が正常化してきたとして実行に至ったと考えられる。(金融機関)



## 原油・原材料高騰に伴う経済変動の影響について

- ◆ このところアルミニウムの価格は激しく変動していたが、大統領選挙後の円安や、世界市場における値段の上昇が見られることから、今後、上昇が見込まれる。(輸送機械器具)
- ◆ 原材料費は10月からも値上げしている。今年に入り3回目の値上げ要請を受けての改定で、全体で10～20%上昇し、利益は2～3%圧迫されている。(非鉄金属)
- ◆ 原材料価格の高騰は昨年2割ほど値上がりしたものの、今年は落ち着いている。(繊維・アパレル)
- ◆ 燃料価格が前年比10%程度上昇したところで高止まりしている。製品の原料となる陶土についても値上がりしているが、製造量が減少していることから燃料費ほど問題となっていない。(窯業・土石)
- ◆ 新たな機械を導入したり、工程を見直したりして効率化を図っている。(木工)

## 海外情勢に伴う経済変動の影響について

- ◆ 中国をはじめとする輸入品との価格競争、購入マインドの低下、後継者不足など問題は山積みであり、業界全体として見通しは非常に厳しい。(窯業・土石)

## 「物流2024問題」の影響について

- ◆ 運送業界では、運転手不足が問題となっており、それを理由に依頼を断られることもある。(非鉄金属)
- ◆ 以前より早めに発注をかけないと運搬車両の確保ができなくなっている。(建設)
- ◆ ドライバー個人に時間の意識を持たせるため、個別に説明を行い、拘束時間の制限について、かなり意識をもって業務を進めるよう改善した。(運輸)
- ◆ 長距離の小口混載を輸送してもらえる業者が減少している。(運輸)

## その他のヒアリング

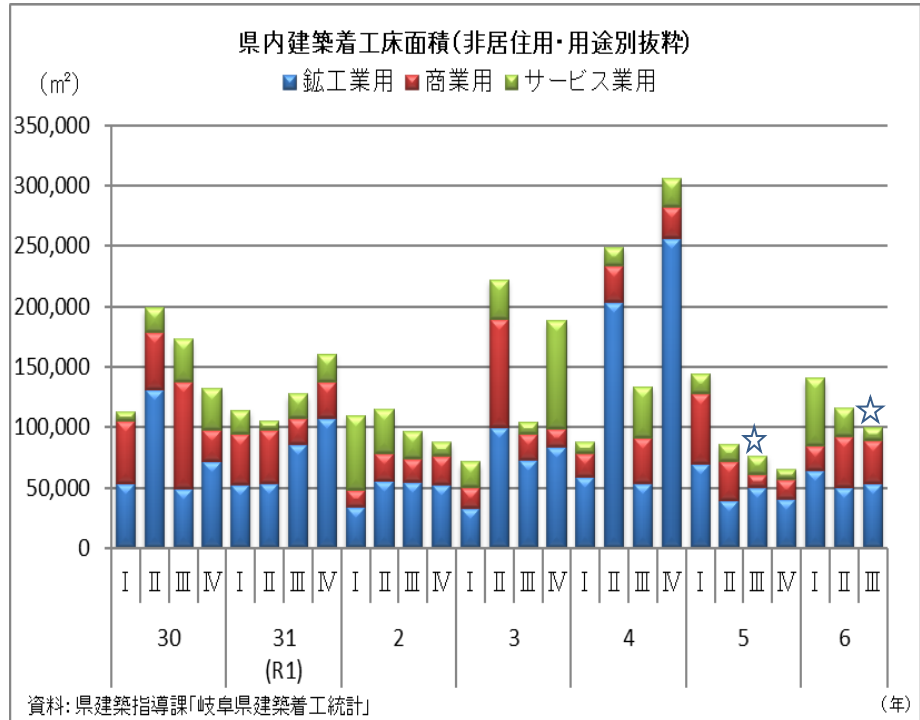
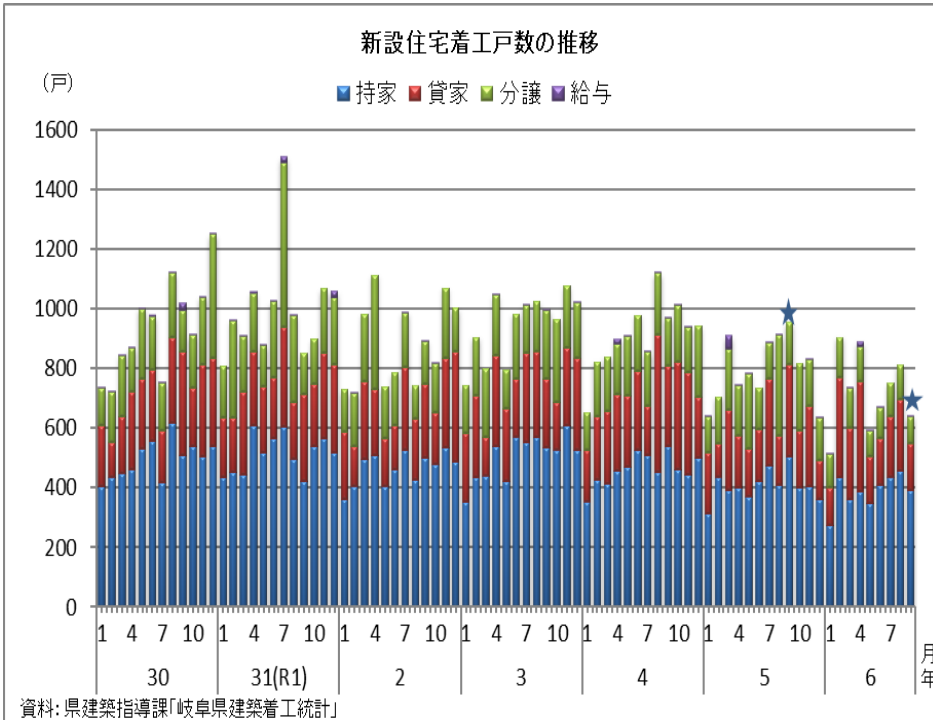
- ◆ 製造業の会合では、高コストなうえ、品質過剰な製品は海外が求める価値とズレがあると、国内生産における品質重視の見直し論が話題となっている。(非鉄金属)

# 住宅・建築投資

○9月の住宅着工戸数は、前年同月比▲32.8%となった。

○貸家で前年同月比▲48.5%、分譲で同▲35.5%、持家で同▲23.0%となった。

○7-9月期の非居住用の建築着工床面積は、商業用で前年同期比233.9%、鉱工業用で同4.8%上昇した一方で、サービス業用で同▲29.1%となり、全体で同30.0%上昇となった。



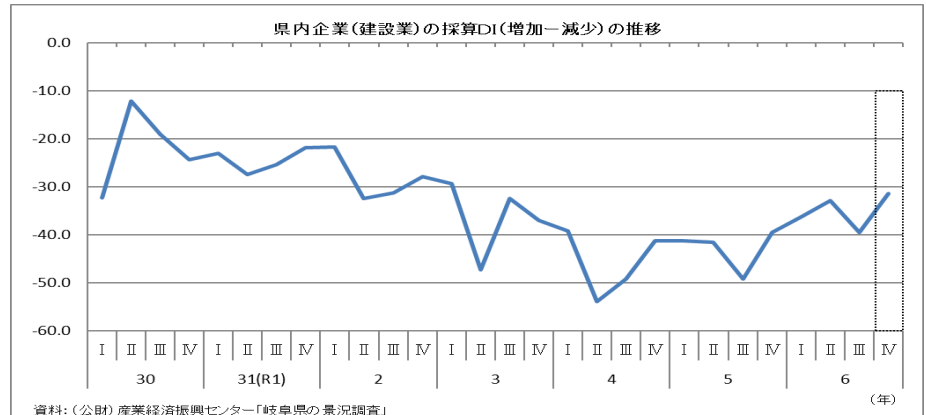
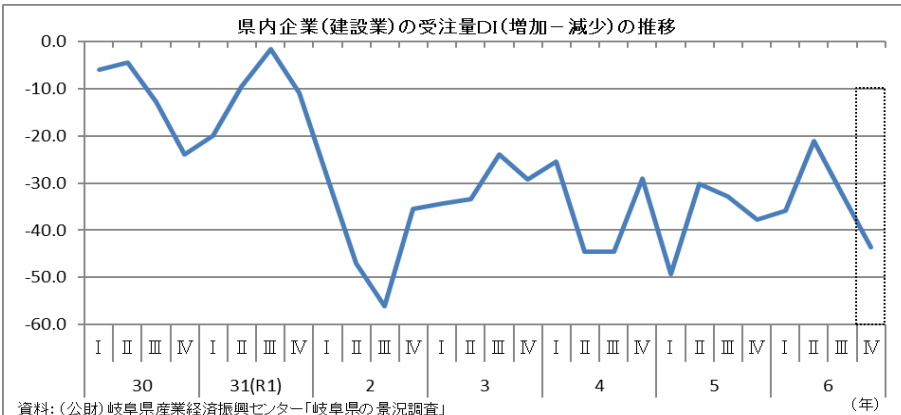
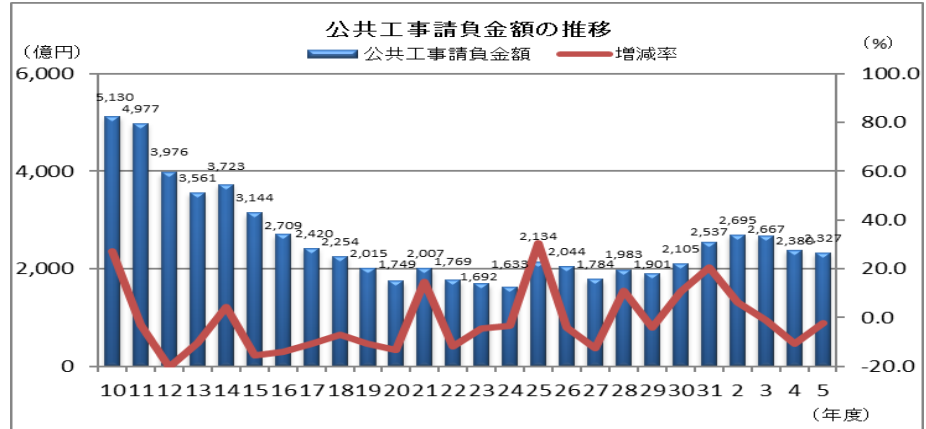
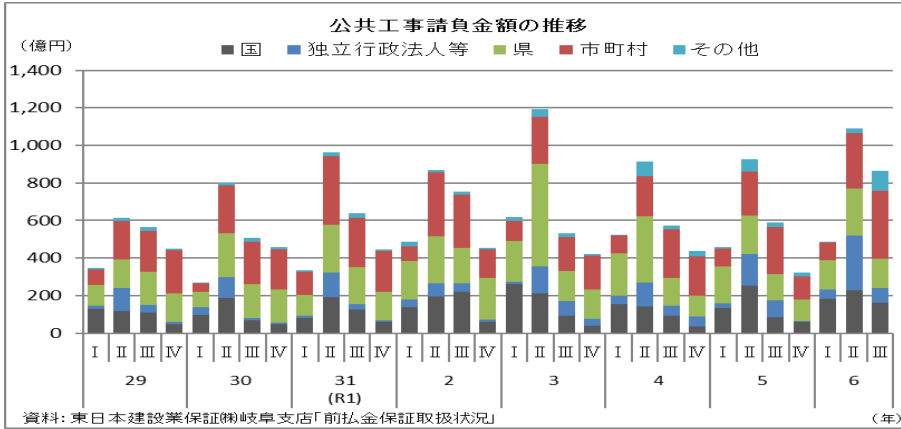
## 現場の動き

- ◆ 例年なら在庫を増やす時期だが、来年の受注予測が立てられないため、このまま必要最低限の在庫で推移させようと考えている。(卸売)
- ◆ 受注数はなんとか昨年並みの確保をできるかどうかといったところだが、コロナ禍前と比較すると20%程度落ち込む見込みであり、芳しくない。(住宅)
- ◆ 出材料は需要が落ちてきたことからか、例年に比べて若干少ない。(住宅)



# 建設工事

- 7-9月期の発注者別の公共工事請負金額は、国で前年同期比90.6%、県で同13.1%増加、独立行政法人等で同▲14.0%となり、全体で同47.5%増加となった。
- 県内建設業の10-12月期の受注量DI見通しは前期比▲11.2ポイントとなり、同採算DI実績は同8.1ポイント上昇となった。



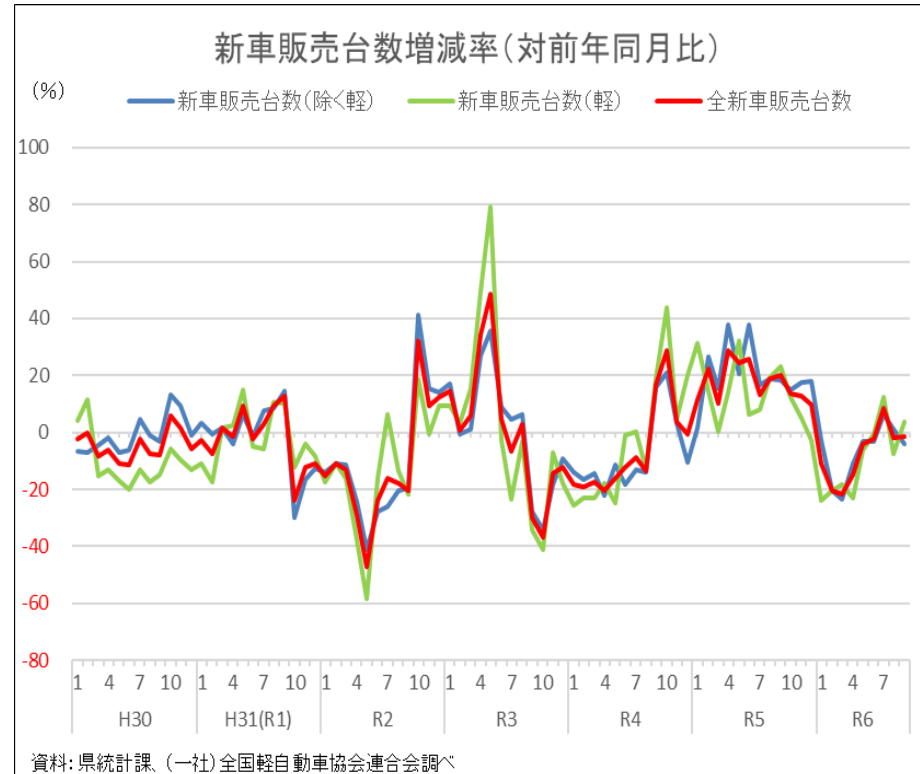
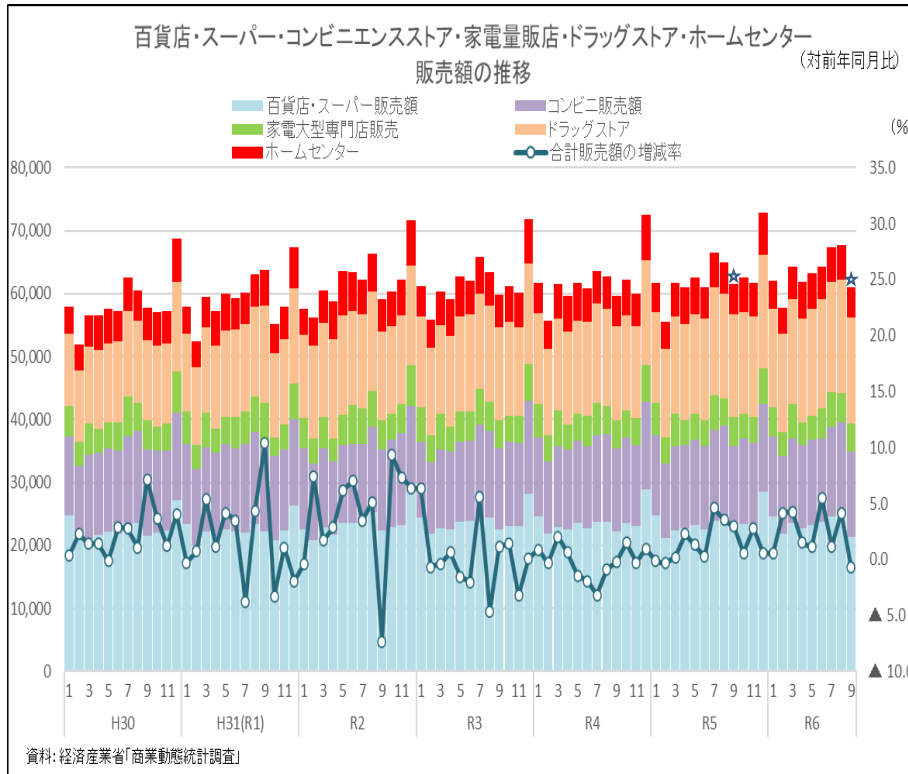
## 現場の動き

- ◆ 土木部門では公共工事の仕事量が減少傾向にあるが、建設部門では、仕事量が増加傾向にあるため会社全体の売上、受注量及び利益等はなんとか確保している。
- ◆ 民間の案件での価格転嫁は相変わらず厳しい状況だが、以前より理解は浸透してきている。 (以上、建設)

# 個人消費(流通・小売)

○9月はドラッグストアで前年同月比3.0%、ホームセンターで同1.7%上昇した一方で、百貨店スーパーで同▲3.6%、家電大型専門店が▲2.7%、コンビニで同▲0.5%となり、全体で同▲0.7%となった。

○9月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比▲3.9%と3ヶ月ぶりに前年同月を下回った。軽自動車は同3.6%増加と2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。合算では同▲1.3%と、前年同月を2ヶ月連続で下回った。



## 現場の動き

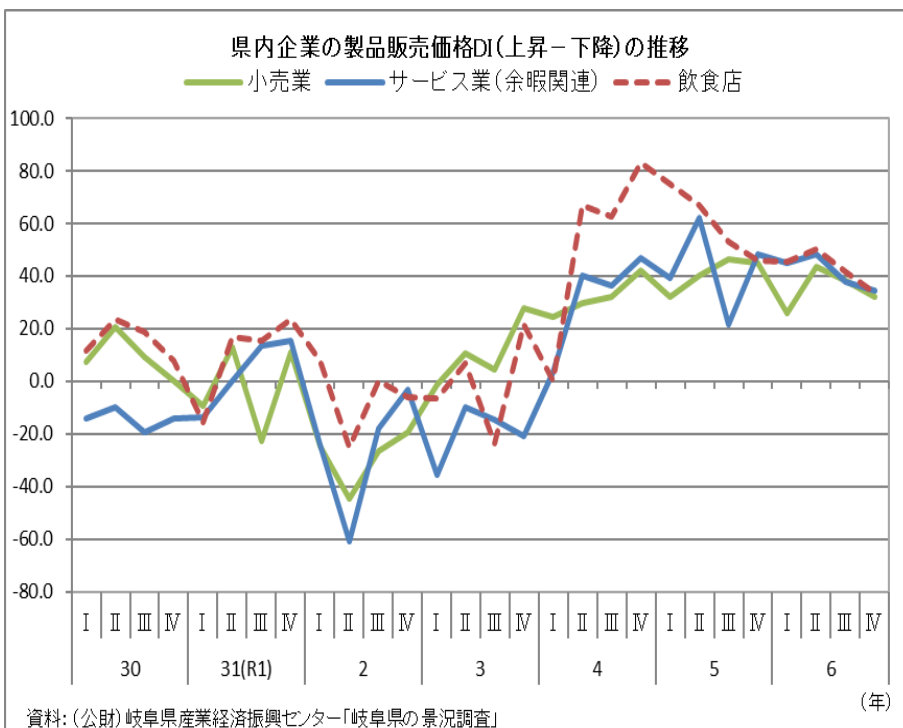
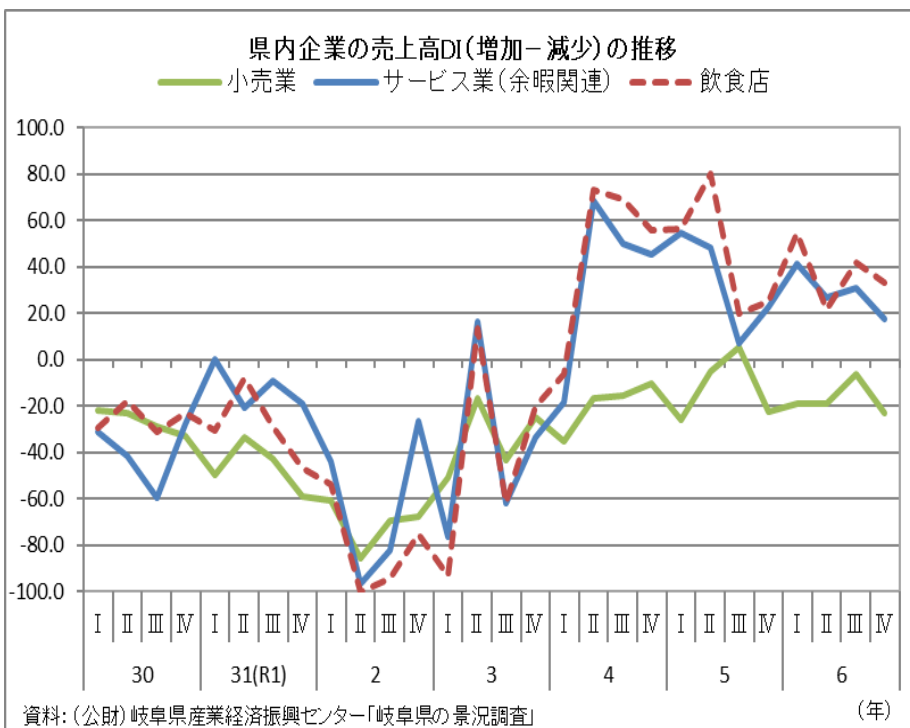
- ◆ 生鮮食料品スーパーは引き続き好調を維持しており、売上も前年同月比で128%を見込んでいる。
- ◆ 10月より食品等値上げされた品目があり、嗜好品などへの消費意欲減退が懸念される。
- ◆ 客数と買上点数は前年を上回ったものの、客単価は下回った。

(以上、県内商業施設)

## 個人消費(流通・小売)－2

○10－12月期の売上高DI見通しは、小売業で前期比▲16.6ポイント、サービス業(余暇関連)で同▲13.7ポイント、飲食店で同▲8.3ポイントとなった。

○同じく販売価格DI見通しは、飲食店で前期比▲8.3ポイント、小売業で同▲6.4ポイント、サービス業(余暇関連)で同▲3.5ポイントとなった。



### 現場の動き

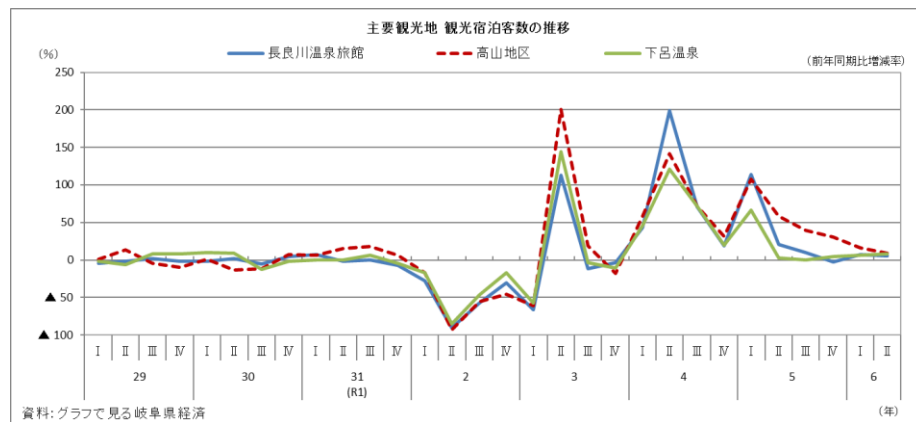
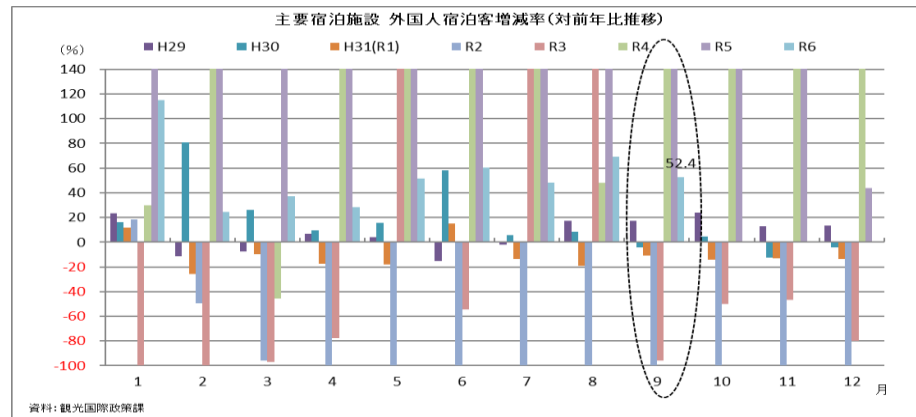
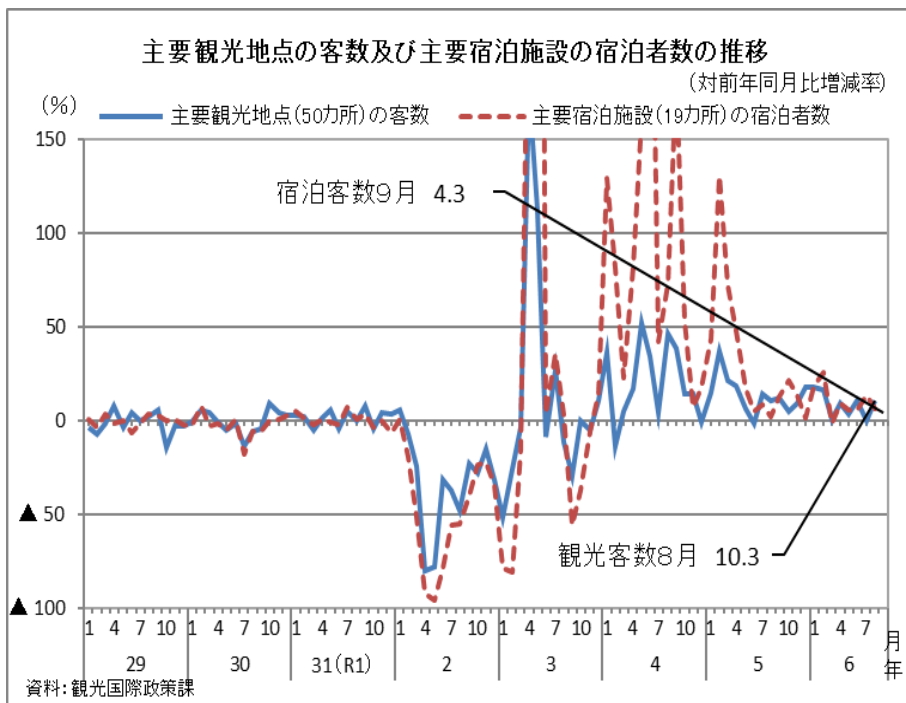
- ◆ 商品はたくさん揃っているものの、来客数が著しく減り、前年同月比30～35%まで売上が減少している。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆ 夏の売上増加により、増員してこなかった製造部門の余裕がなくなり、製造計画が圧迫されているため、生産調整で製造数を減らすべく、11月に一部商品の値上げを予定している。(大垣市商店街)
- ◆ 10月には酒類や飲料水の値上げがあったため、随時価格転嫁している。(多治見市商店街)

# 観光

○主要宿泊施設における9月の宿泊者数は、前年同月比4.3%増、令和元年同月比では、12.1%減となっている。

※主要観光地における9月の観光客数については、集計中。

○9月の主要宿泊施設における外国人宿泊者数は、コロナ前の令和元年同月比では、71.6%増となっている。

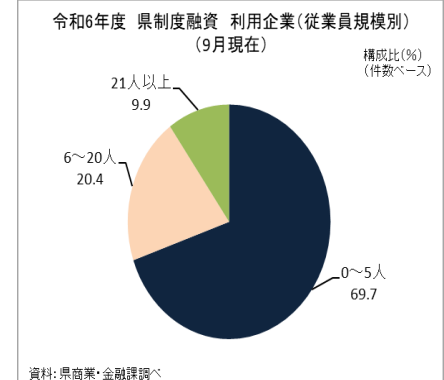
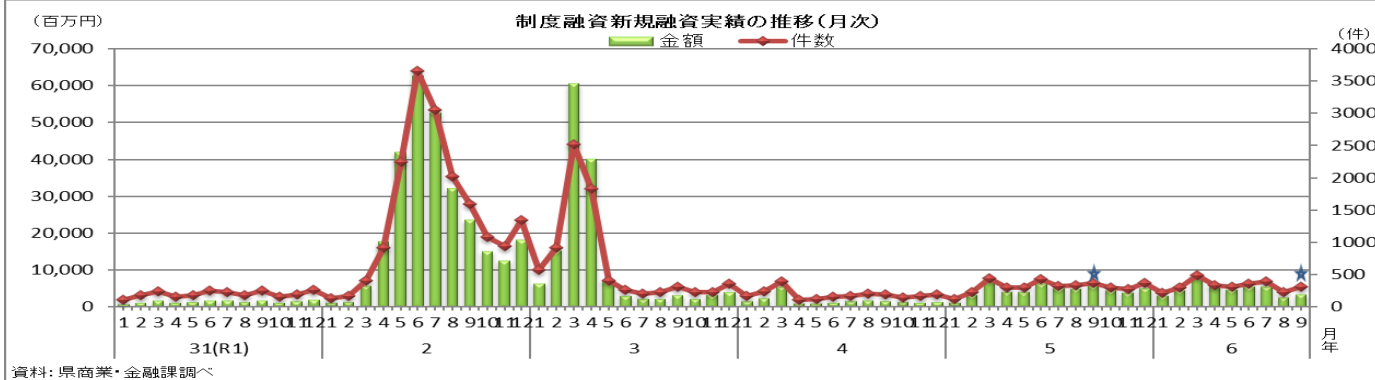
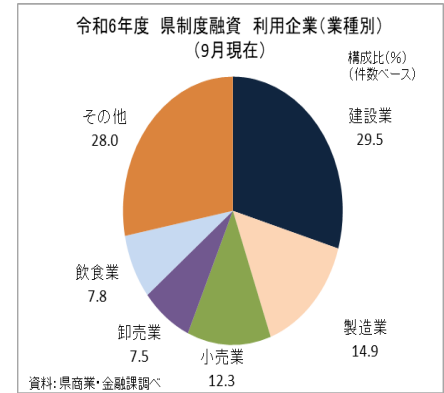
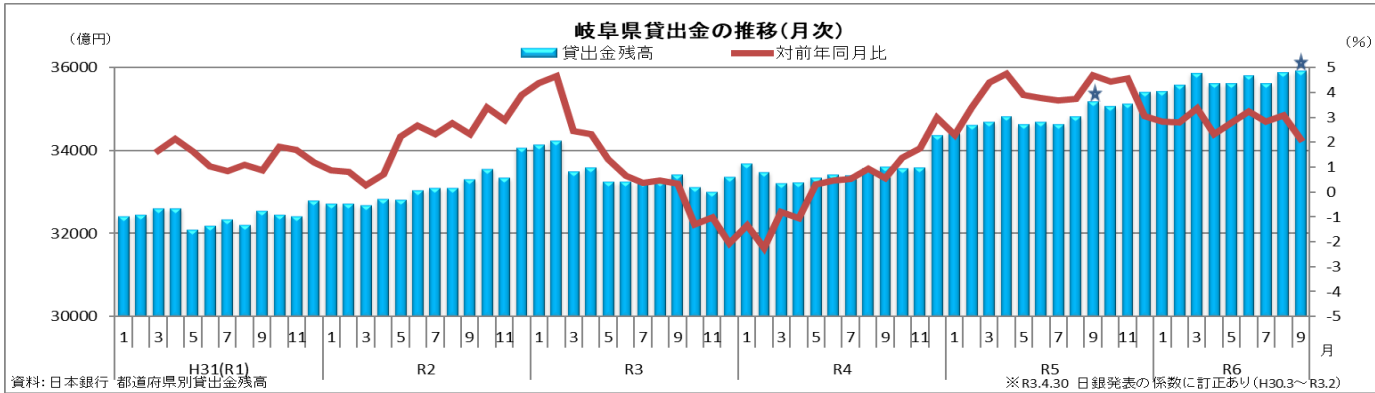


## 現場の動き

- ◆国内のツアー団体客の入込が不調。(下呂市、高山市の宿泊施設)
- ◆インターネット予約が増加。(岐阜市、下呂市、美濃加茂市の宿泊施設)
- ◆原材料や人件費の高騰が続いている。(岐阜市、高山市、下呂市の宿泊施設)
- ◆人材不足が深刻化しており、日本人の人材確保が困難。(高山市、下呂市の宿泊施設)

# 資金繰り

- 9月の岐阜県貸出金残高は、3兆5,936億円で前年同月比2.1%増加し、29ヶ月連続で増加。
- 9月の制度融資実績は、金額が3,554百万円で前年同月比▲40.0%、件数は310件で同▲15.1%と、金額、件数共に2ヶ月連続で減少した。
- 制度融資利用企業の従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の69.7%を占めている。



## 現場の動き

- ◆ 資金需要は、特段大きな動きはないが、金利の引き上げの影響はまだ大きくないためか、融資残高ベースで見ると、緩やかに増えていっている。
- ◆ 事業承継について、特にM&Aが盛況。家族経営の会社等後継者がいないところは、第三者に買い取ってもらい、廃業を免れている状況。(以上、金融機関)

# 資金繰り-2

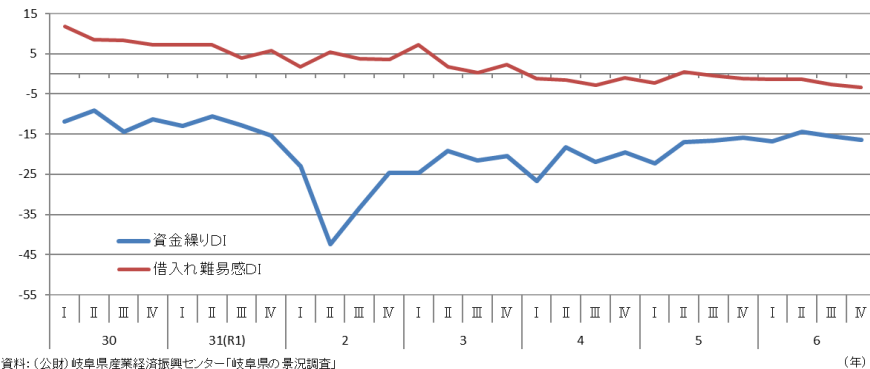
○10-12月期の資金繰りDI見通しは▲16.4で、前期比▲0.9ポイントとなった。同借入難易感DI実績は▲3.3で、前期比▲0.6ポイントとなった。

○7-9月期の主要資金別新規制度融資実績は、経済変動対策資金で前年同期比431.5%、返済ゆったり資金で同343.7%増加した。元気企業育成資金では同35.2%増加と10期連続で増加した。

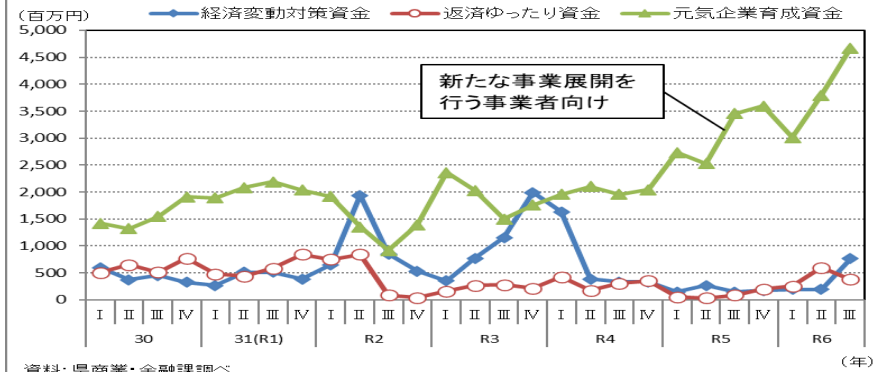
○9月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が9件で前年同月比▲78.6%、金額は276百万円で同▲77.4%となった。

○9月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は100件で前年同月比132.6%増加、金額は1,128百万円で同78.9%増加となった。

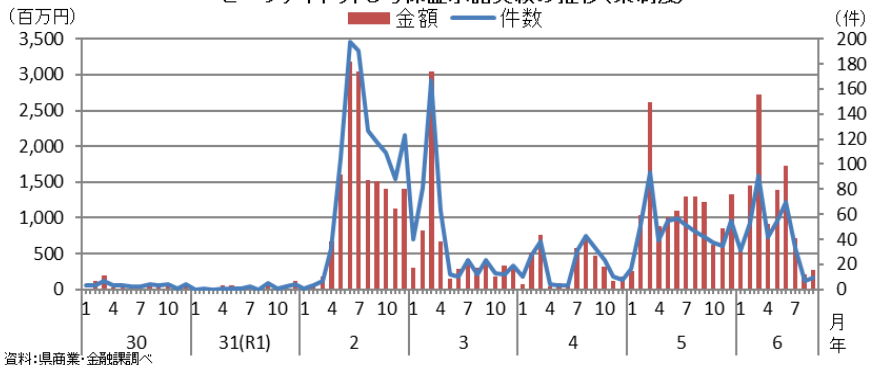
県内企業の資金繰りDI(好転-悪化)及び借入難易感DI(容易-困難)の推移



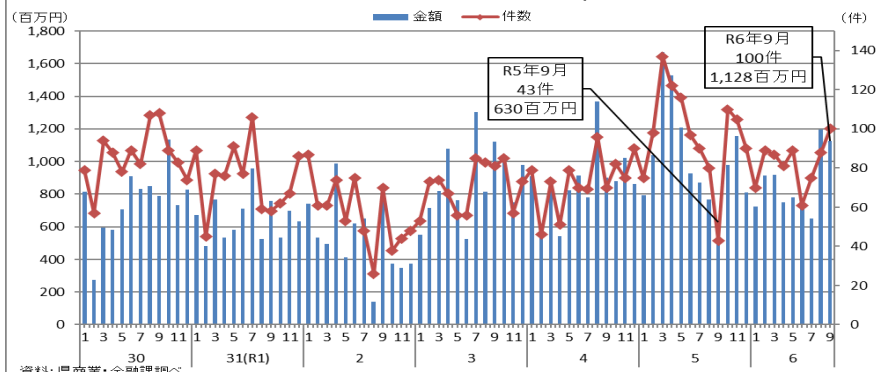
主要資金別新規制度融資額実績の推移



セーフティネット5号保証承諾実績の推移(県制度)



県信用保証協会 事故報告受付状況(毎月)

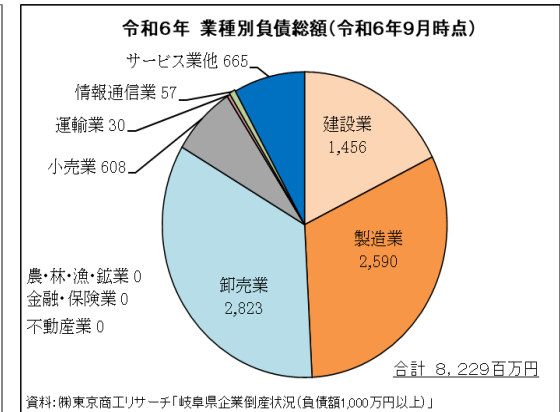
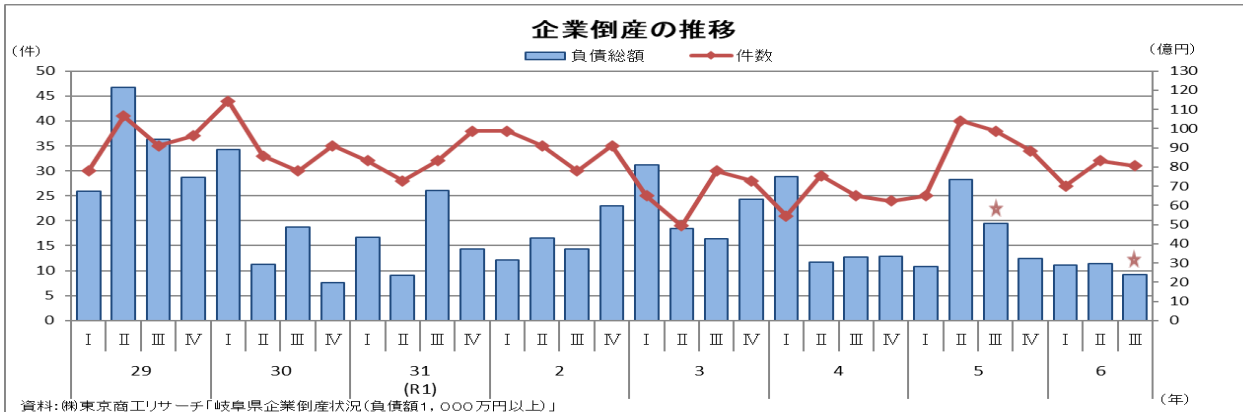
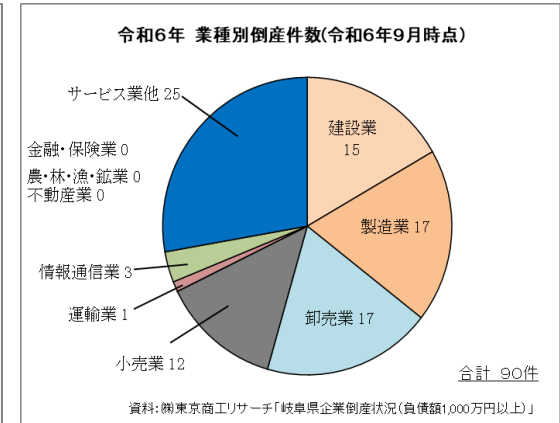
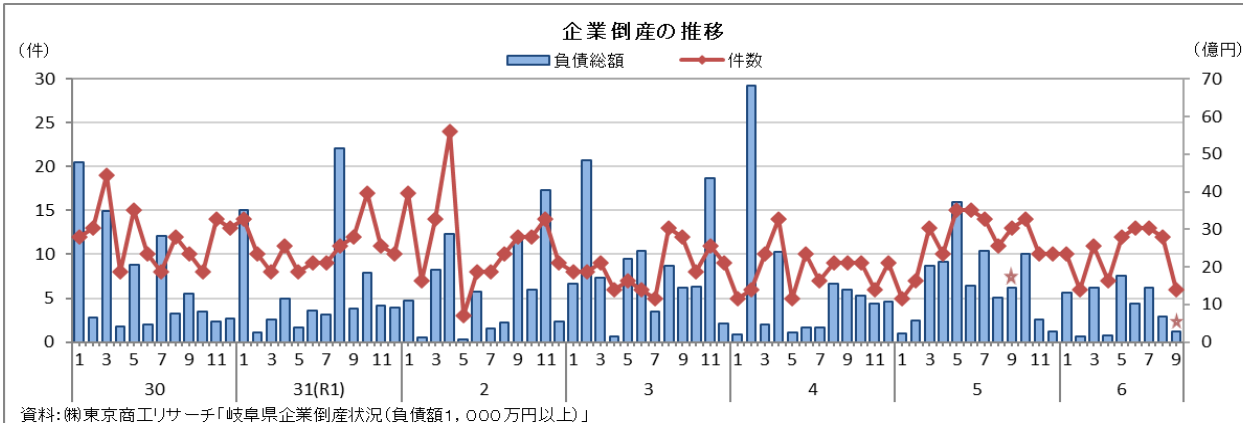




# 倒産

○9月単月の倒産件数は6件、負債総額は前月比▲387百万円の285百万円となった。

○令和5年9月は負債総額1億円以上の倒産は3件発生したのに対して、令和6年9月は同倒産1件となった。負債総額は前年同月比▲876百万円となった。



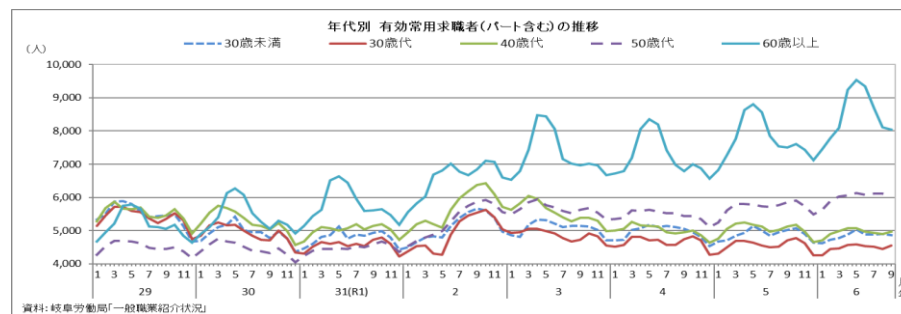
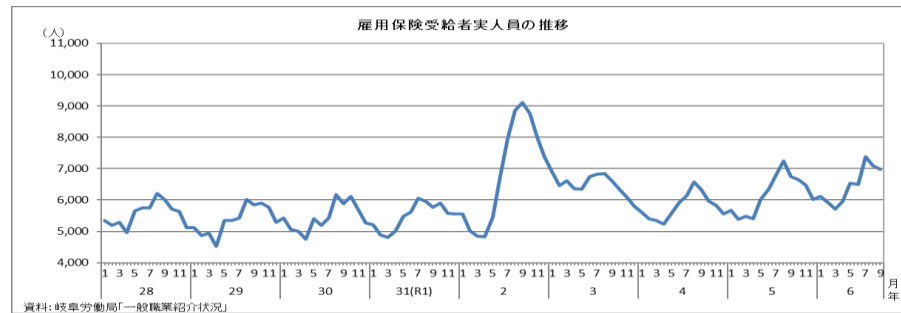
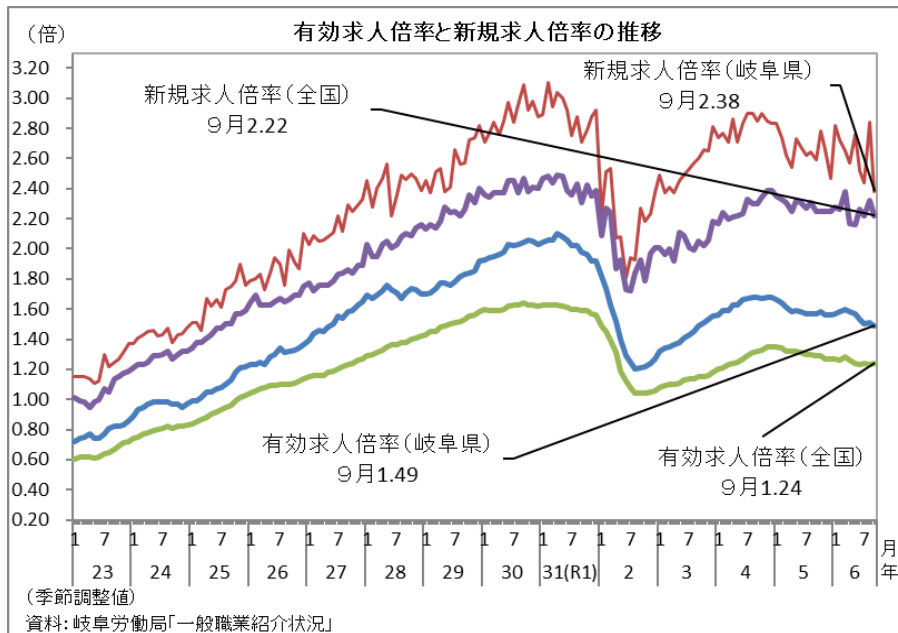
## 専門機関の分析(東京商工リサーチ・10月8日時点)

◆ 石破内閣が発足し、デフレ脱却、物価高への対応に取り組むとしているが、効果的な経済施策を打てるかは未知数となっている。経済情勢としては、米国の利下げ、日銀の政策金利引き上げ等による日米金利差の縮小から為替相場の円安基調は幾分か修正されつつあるが、円安に伴う輸入価格は高止まりが続くものと見られる。物価高や人件費上昇などコストアップ圧力は強まっており、過剰債務などコロナ禍の負荷を抱えた企業の倒産件数が増勢局面に入る可能性は否定できない。

# 雇用

- 9月の有効求人倍率は1.49倍と、前月比▲0.02ポイントとなった。
- 9月の新規求人倍率は2.38倍と、前月比▲0.46ポイントとなった。

- 9月の雇用保険受給者人員は、前月比▲1.7%となった。
- 有効常用求職者は、50歳代では20ヶ月連続、60歳代では21ヶ月連続で上昇した。



## 現場の動き

- ◆ 障がい者雇用については、中途及び新卒採用を通じて法定雇用率2.5%を満たしており、社内の業務支援センターで清掃業務等に従事してもらっている。(輸送用機械)
- ◆ 来年4月のベースアップ等、賃上げについて、利益を削ってでも対応する必要はあるが、そのような利益が確保できるかどうか、中小企業としては厳しいところである。(輸送用機械)
- ◆ 採用を考え、今年に入って新卒は7千円のベースアップを行ったが、採用面ではプラスになっておらず、福利厚生面の充実が必要と考えている。(生産用機械器具)
- ◆ 人材不足の対策として、ジョブローテーション制度を社内に導入しており、業務を平準化することで休暇が取りやすい環境を整え、ワークライフバランスの向上を目指している。(窯業・土石)

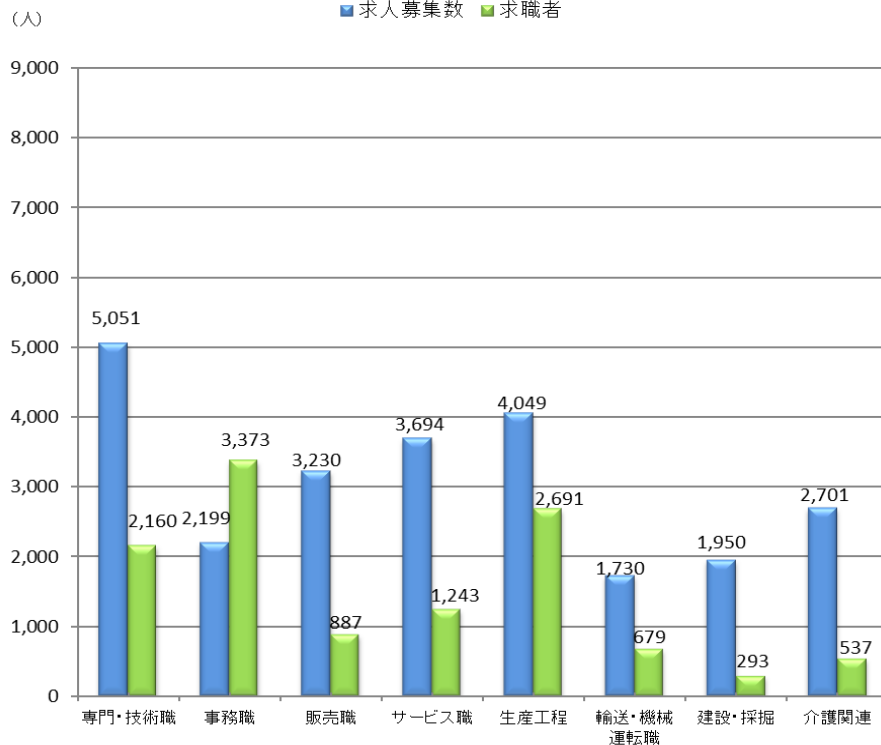
# 雇 用(職業別)

○有効求人倍率は、建設・採掘で6.66倍、介護関連で5.03倍、販売職で3.64倍、サービス職で2.97倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

○一方で、事務職の有効求人倍率は0.65倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

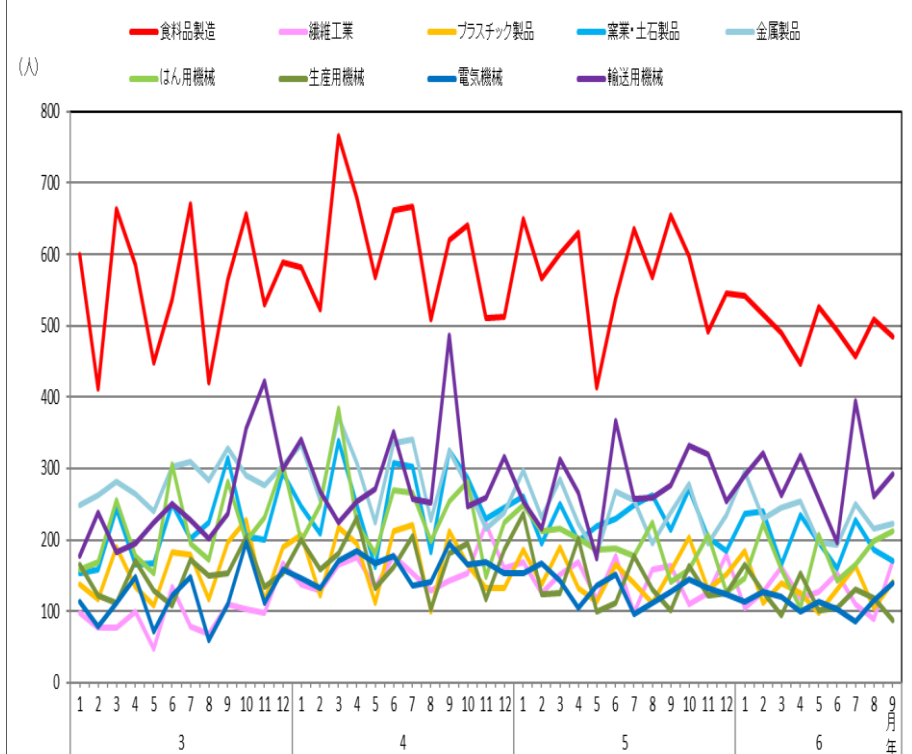
○9月の主要産業別の新規求人数は、はん用で前年同月比51.1%、電気機械で同9.4%、輸送用機械で同5.8%、繊維工業で同4.9%増加した一方で、食料品で同▲26.1%、窯業・土石で同▲20.1%、生産用機械で▲13.9%、プラスチック製品で▲10.2%、金属製品で同▲6.7%となった。

9月 職業別有効求人募集数・有効求職者数(常用的フルタイム)



資料: 岐阜労働局「求人・求職」バランスシート」

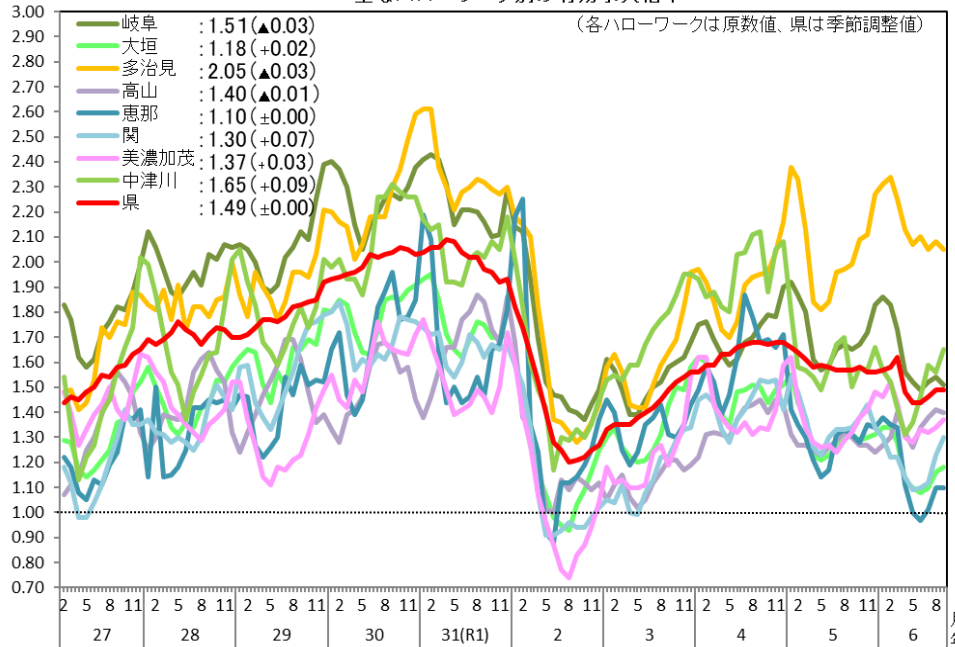
主要産業別 新規求人数(一般+パート)推移



資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

# 雇用(地域別)

主なハローワーク別の有効求人倍率



注1: 大垣所分は揖斐出張所分を含む 注2: 平成21年4月以降の関所分は岐阜八幡出張所を含む  
資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

○9月の主なハローワーク別の有効求人倍率は、大垣、関、美濃加茂及び中津川で前月比で増加となった。

## 現場の動き(前月比)

### <ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は増加、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数はやや増加。

### <ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は増加、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <ハローワーク高山>

- ◆求人者数、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は増加、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <ハローワーク関>

- ◆求人者数、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク中津川>

- ◆求人者数は減少、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <窓口の様子> ※前月比

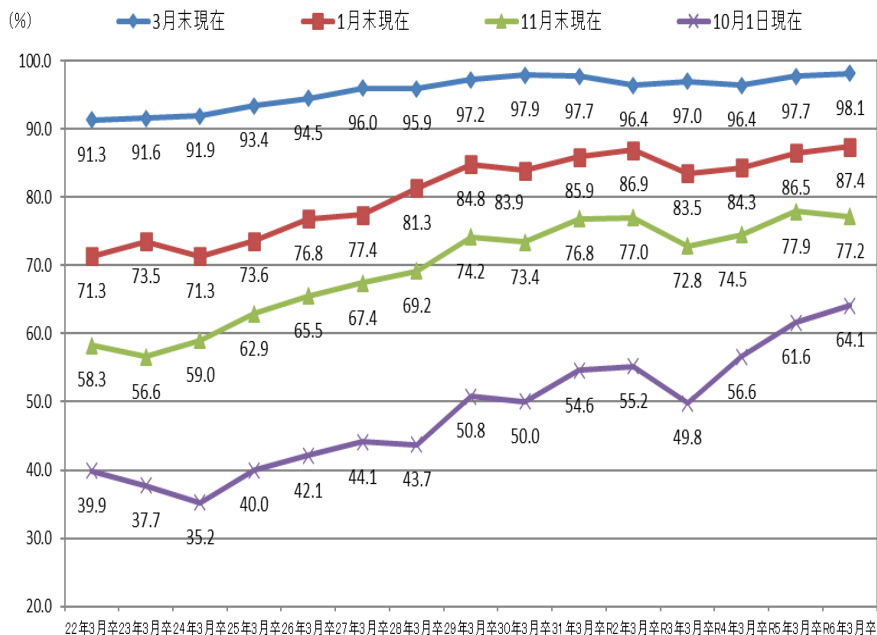
- ◆大垣、関、中津川でやや混雑している、岐阜、高山、恵那及び美濃加茂で同じくらい、多治見でやや空いている状況。

# 雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○岐阜県の令和6年3月末現在の大学・短大卒業者(令和6年3月卒業)の就職内定率は、98.1%であり、前年同時点と比べ0.4ポイント上昇となった。

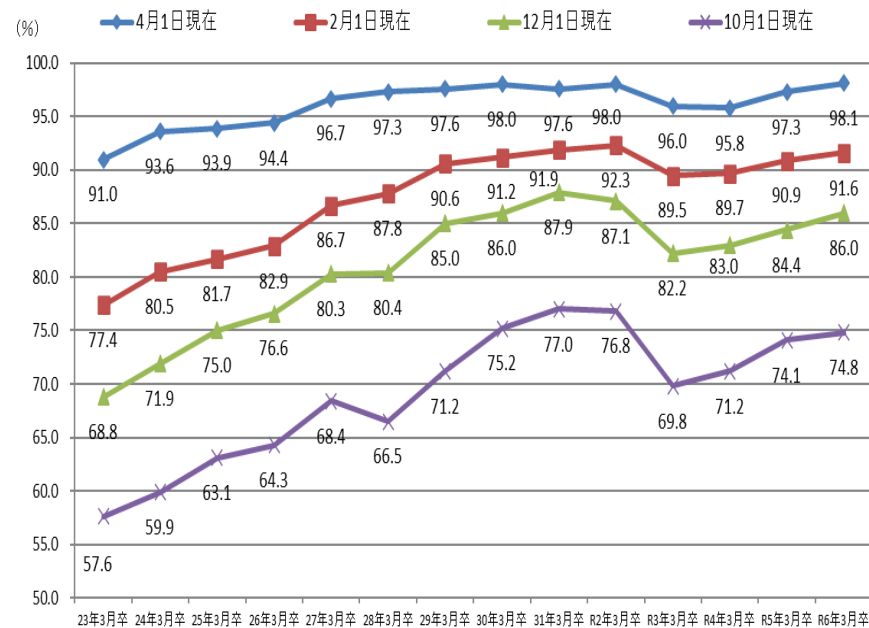
○全国の令和6年4月1日現在の大学卒業者(令和6年3月卒業)内定率は98.1%であり、前年同時点と比べ0.8ポイント上昇した。

新規卒業者(大学・短大)の就職内定率の推移<岐阜県>



資料:岐阜労働局「新規学校卒業生(大学・短大)の就職内定状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料:厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

## 現場の動き(2025卒、2026卒の動きなど)

### <大学へのヒアリング>

- ◆ 25年卒からの相談は未内定学生から少しある状況。内定率も例年とさほど変わらない。
- ◆ 26年卒からの相談は例年に比べて増えている。相談内容は昨年と大きく変わり、エントリーシート作成や面接対策などの選考対策が大半を占めている。

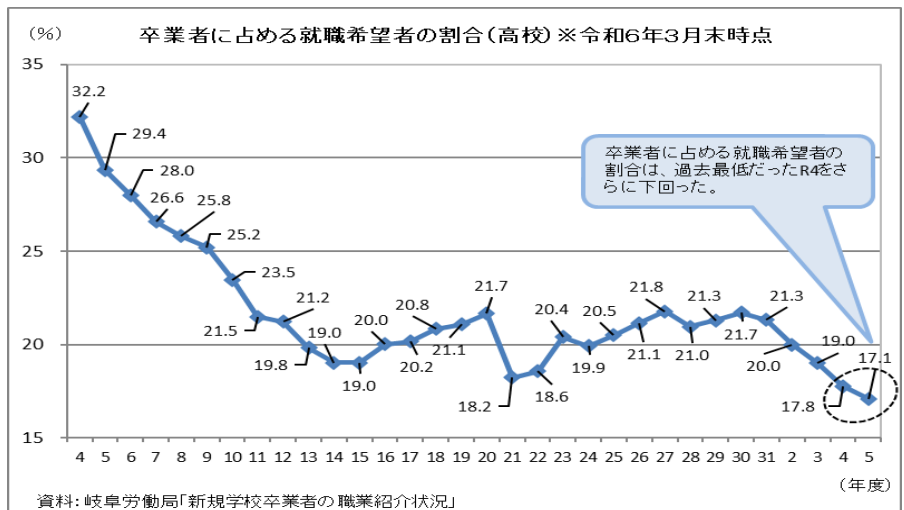
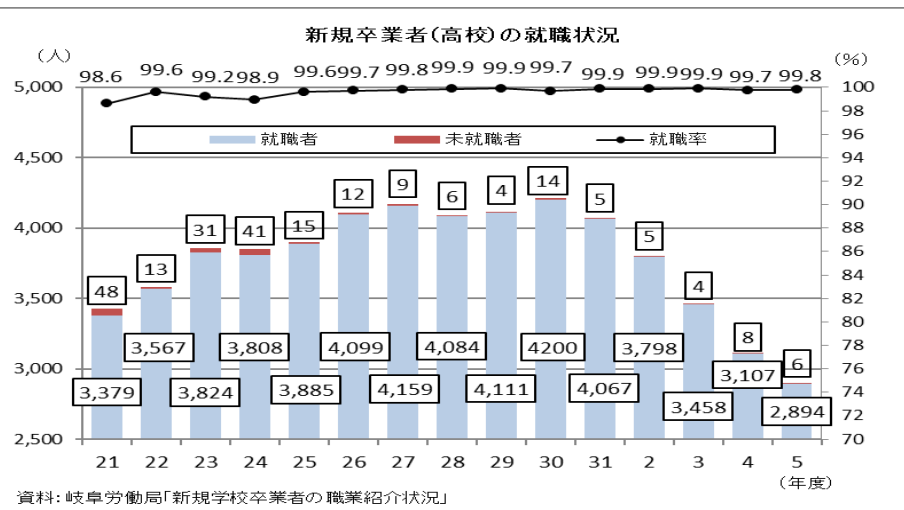
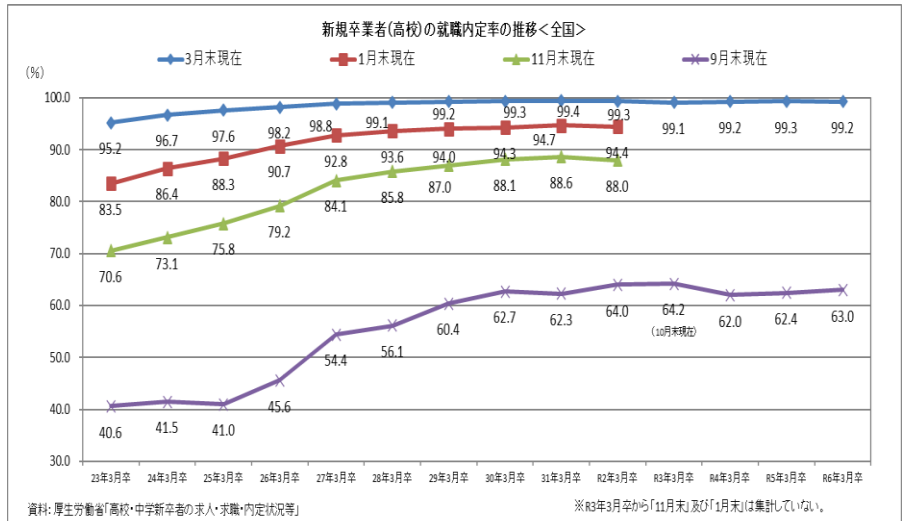
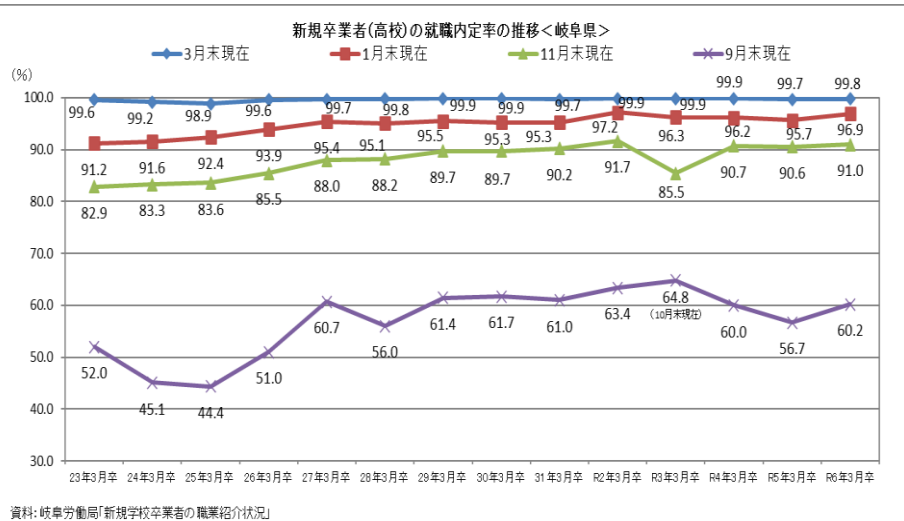
(以上、岐阜・愛知県内大学)



# 雇 用(高校新卒者の就職)

○岐阜県の令和6年3月末現在の高校卒業者(令和6年3月卒業)の就職内定率は99.8%であり、前年同時点と比べ0.1ポイント上昇した。

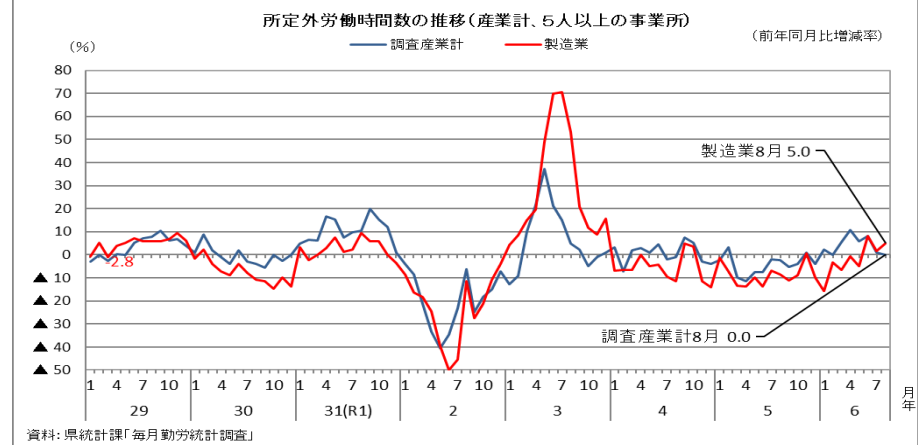
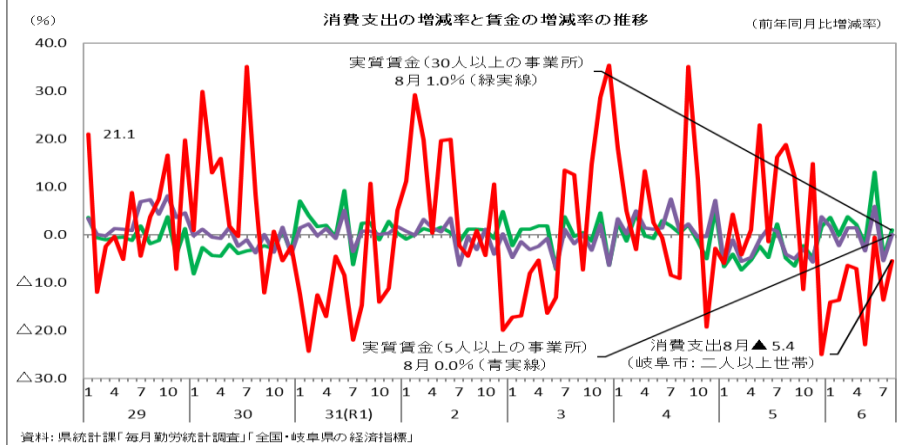
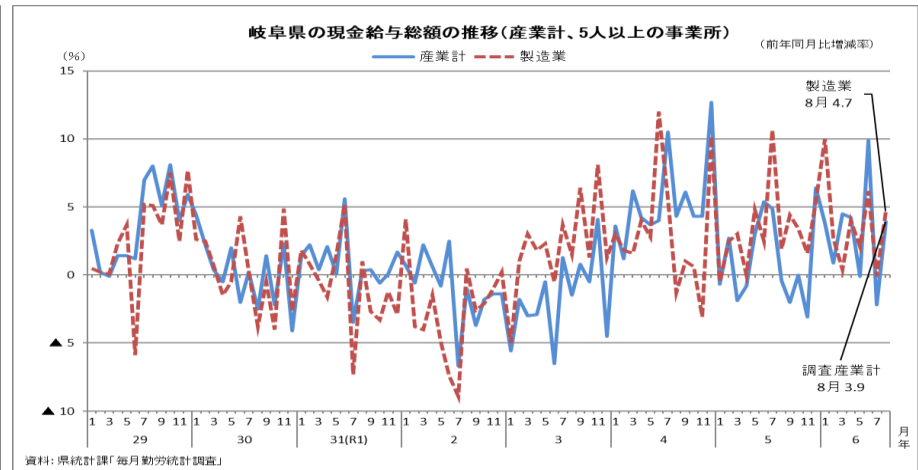
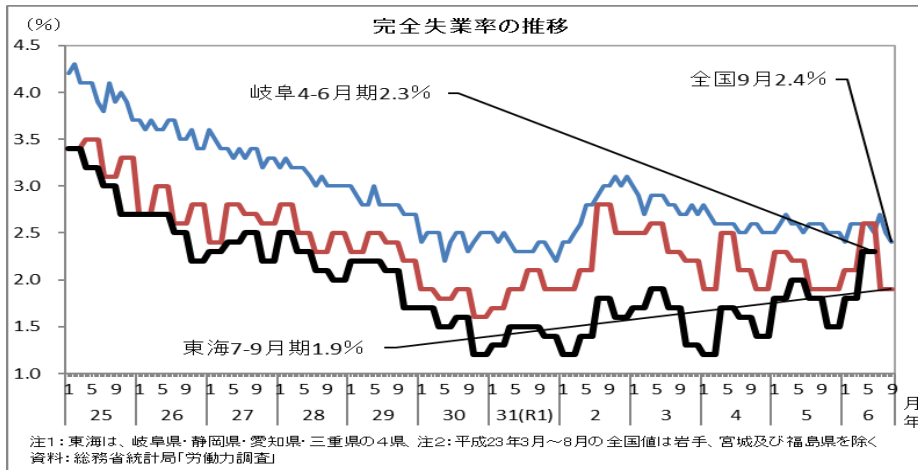
○全国の令和6年3月末時点の高校卒業者(令和6年3月卒業)の就職内定率は99.2%であり、前年同時点と比べ▲0.1ポイントとなった。





# 雇 用(完全失業率等)

- 全国の9月の完全失業率は2.4%で前月比▲0.1%となった。岐阜県の4-6月期の平均は2.3%で前期比0.5ポイント上昇となった。
- 8月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比3.9%、製造業で同4.7%上昇となった。
- 8月の実質賃金増減率は、30人以上の事業所で前年同月比1.0%上昇、5人以上で同率となった。
- 8月の消費支出については同▲5.4%となった。
- 8月の所定外労働時間数は前年同月比で同率となった。



# ＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、8月の鉱工業生産指数は▲3.4%となった。ヒアリングでは、国内需要が戻ったことにより、10月の売上高は、前月比において増加、前年同月比についても増加を見込んでいるとの声や、工作機械の市場に動きが無いことに加え、人件費の上昇や物価高騰の影響も受け厳しい状況だが、自動車関係の注文が戻ってきているため、下半期の巻き返しに期待しているとの声が聞かれた。
- 地場産業は、8月の鉱工業生産指数は、木材・木製品、窯業・土石、繊維、パルプ・紙で下降した。ヒアリングでは、輸出事業は堅調に推移しているものの、小売事業の苦戦が顕著であり、売上は前年比7～8%減少しているとの声や、綿糸、繊維業界の見通しはかなり悪いと聞いており、取引のあるタオルメーカーも織機稼働率は3～4割減少しているとの声が聞かれた。
- 設備投資は、9月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲6.5%となった。ヒアリングでは、原価計算システムの追加や、チャットGPTを活用し生産計画を作成するシステムを導入しているとの声や、出荷時における製品のストック場所や出荷口、搬出スペースの確保、整備なども検討しているとの声が聞かれた。
- 個人消費は、9月の販売額は、全体で前年同月比▲0.7%となった。ヒアリングでは、客数と買上点数は前年を上回ったものの、客単価は下回ったとの声や、10月より食品等値上げされた品目があり、嗜好品などへの消費意欲減退が懸念されるとの声が聞かれた。
- 観光は、宿泊者数はインバウンド客の増加等により、前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にあり、コロナ前の約9割まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。
- 企業の資金繰りは、9月の制度融資実績は、金額で2ヶ月連続で減少となった。資金需要は、特段大きな動きはないが、金利の引き上げの影響はまだ大きくないためか、融資残高ベースで見ると、緩やかに増えていっているとの声が聞かれた。
- 雇用面は、9月の有効求人倍率は1.49倍と36ヶ月ぶりに1.50倍を下回った。ヒアリングでは、障がい者雇用については、中途及び新卒採用を通じて法定雇用率2.5%を満たしており、社内の業務支援センターで清掃業務等に従事してもらっているとの声が聞かれた。一方で、来年4月のベースアップ等、賃上げについて、利益を削ってでも対応する必要はあるが、そのような利益が確保できるかどうか、中小企業としては厳しいところとの声が聞かれた。